

音楽科学習指導略案

5年1組 30名 指導者 福留 健之

本授業では、以下の検証を行うものである。
 子どもたちが、音楽を形づくっている要素を視点にした言語活動を行うことは、自分の思いや意図を豊かに表現することに結び付いているか。

1 題材 アジアの音楽に親しもう

「アジアの国々の音楽」

- ・メヘテルハーネ（トルコ）、モリンホルの演奏（モンゴル）、シタールとタブラーの演奏（インド）
- ・アルフーの演奏（中国）、カヤグムの演奏（朝鮮半島）、ケチャ（インドネシア）

「アリラン」 安西薫日本語詞／朝鮮半島民謡

「まつり花」 花岡恵日本語詞／中国民謡／小原光一採譜

「おはやしづくり」

「子もり歌」 日本古謡

2 目標

旋律の特徴や響きの違いを感じ取って、進んで歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫したり、おはやしをつくって演奏したりすることができるようにする。

アジアの国々の音楽に関心をもって、音楽の違いを感じ取ったり、それぞれのよさを味わったりしながら聴くことができるようにする。

3 題材の評価規準

- アジアの国々の音楽に関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。
【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律の特徴や歌詞から曲想を感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫している。
【音楽的な感受や表現の工夫】
- 旋律の特徴を感じ取って歌ったり、おはやしをつくって演奏したりすることができる。【表現の技能】
- アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったり、それぞれのよさを味わったりしながら聴くことができる。
【鑑賞の能力】

4 指導計画（総時数8時間）

主な学習活動【評価規準】	〔共通事項〕	時間
1 題材「アジアの国々の音楽」の教材曲を聴いたり、教科書の写真や地図を見たりすることにより、題材への思いをもちながら学習を見通すとともに、学習計画について話し合う。 【関：アジアの国々の音楽について関心をもち、進んで学習計画について話し合おうとしている。】 「アジアの国々の音楽」	音色 音階や調	1
2 アジアの音楽や楽器の音色に親しむ。 【鑑：アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったり、よさを味わったりしながら聴くことができる。】 「アリラン／まつり花」	音色 リズム 音の重なり	1 (本時)
3 ふしの特徴を感じながら聴いたり歌ったりする。 【関：アジアの国々に関心をもって聴いたり歌ったりしている。】 「おはやしづくり」	旋律 音階や調	1
4 日本の音階や和太鼓に親しむ。 【関：日本の音階や和太鼓に興味をもって取り組もうとしている。】	リズム	1
5 おはやしのふしやリズムをつくる。	音色	1
6 グループに分かれて、おはやしづくりをする。 【感：グループで協力しておはやしを工夫している。】	変化	1
7 グループごとにつくったおはやしを発表する。 【技：おはやしの感じを生かしたふしづくりやリズムづくりができる。】 「子もり歌」	問いと答え 反復	1
8 日本の伝統的な旋律の感じや響きを味わいながら聴いたり、歌ったりする。 【関：日本の歌に関心をもち、曲想を生かして歌おうとしている。】	音階や調 旋律	1

5 本時（2／8）

(1) 目標

アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったりよさを味わったりしながら聴くことができるようにする。

(2) 評価規準

アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったりよさを味わったりしながら聴くことができる。【鑑賞の能力】


(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、身近なところで琴などの和楽器の音色を耳にすることがあることを知らせたり、2年生の国語科教材「スーホの白い馬」で馬頭琴（アルフー）が登場したことを知らせたりして、アジアの音楽に関心をもたせるようにする。

「見通す」過程では、教科書の写真や提示資料から、音楽の特徴や違いが比べやすい音楽を組み合わせ、鑑賞の学習をしていくとよいことに気付かせ、聴く視点をはっきりと意識させるようにしたい。「追究する」過程では、学習カードを準備して、子どもたちが比べながら聴いて感じたことや気付いたことを整理しながら記述できるようにしておく。その際、音楽を形づくっている要素を表す言葉を学習カードに印刷しておき、それを参考にしながら記述できるようにしておく。

「磨き合う」過程では、学習カードの記述をもとに気付いたことや感じたことを発表し合い、アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったりよさを味わったりできるようにする。

「振り返る」過程では、日本の伝統音楽も、アジアの国々の音楽と深いつながりがあることに気付かせ、次時の学習への意欲付けを図るようにする。

(4) 本時の展開 [] 子どもの意識  教師の手立て ※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
7分	つかむ	<p>1 アジア地域の地図や楽器の写真をもとに、日本に古くから伝わる楽器と比べた感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 似たような楽器が日本にもあるぞ。 アジアの国々は、お互いに近いことが音楽とも関係があるのかな。 形が似た楽器は、音も似ているのかな。それともちがうのかな。 アジアの国々の音楽について、日本の音楽と比べながら調べてみたいな。 <p>2 学習課題と追究方法を確認する。</p> <p>アジアの国々に伝わる音楽について調べよう。</p>
20分	見通す	<p>3 学習の進め方（比べながら聴く曲の組合せ）を確認する。</p> <p>(1) メヘテルハーネによる演奏と、モリンホールによる演奏を、違いに気を付けながら聴く。</p> <p>(2) シタールとタブラーによる演奏と、アルフーによる演奏を、違いに気を付けながら聴く。</p> <p>(3) カヤグムによる演奏とケチャを、違いに気を付けながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 比べながら曲を聴くと、曲の感じや楽器の音色、演奏の形の違いなどがよく分かりそうだね。 <p>4 曲の感じや楽器の音色、演奏の形などに気を付けながら、確認した組合せの順番に鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> トルコの音楽は、たくさんの楽器が使われていてにぎやかだな。打楽器の音も聞こえるよ。 モリンホールは、一つの楽器での演奏だけど、いい響きがするね。 シタールはギターに似てるけど、音はどう違うのかな。 アルフーはシタールと違って、弦の数が少ないね。それでも、シタールにはないよさがあるよ。 カヤグムは、音色も形も日本の琴に似ているね。どうしてかな。 ケチャは、楽器を使っていないね。なぜ声だけなんだろう。
13分	磨き合う	<p>5 鑑賞して気付いたことや感じたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> アジアの国々の音楽には、似ているものがたくさんあるね。 似た楽器でも音色に特徴があり、それぞれのよさがあるね。 それぞれの国に、大切にされてきた音楽があるのがわかったよ。
5分	振り返る	<p>6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近くの国の音楽を少し歌ったり演奏したりしてみたいね。 日本の音楽についても学習するね。自分の国に伝わる音楽についても調べてみたいな。

導入の「音タイム」で、カヤグムの演奏を聴かせ、日本の伝統楽器である琴の音色に似ていることに気付かせることにより、本時の学習への関心をもたせるようにする。

2年生の国語科教材「スーホの白い馬」や、聴く機会の多い「春の海」などを話題にしながら、関心をもたせるようにする。

比べながら鑑賞するには、どの組合せがよいのかも、自分たちで考えさせることで鑑賞のポイントに気付かせるようにする。

比較して気付いたことなどを、視覚的に分かりやすいよう板書する。また、音色やリズムといった音楽を形づくっている要素を表す言葉を使わせることで、印象的な鑑賞でなく、より音楽的な視点で鑑賞させるようにする。

比べながら聴いて、感じたり気付いたりしたことを学習カードに書かせる。その際に、楽器の名前や、音色や旋律の感じなどの音楽の要素を表す言葉を用いて記述させるようにする。

※ アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったりよさを味わったりしながら聴くことができる。（発表や学習カードの記述）

- 楽器や音色、演奏の形などの特徴に気付いて記述している子どもには、その音楽を表すためにさらにより表現がないか考えさせたり、自分が感じたことを伝えるには、どのような発表の方法や内容がよいかを考えさせる。
- 学習カードへの記述がすすまない子どもには、比べる視点を再度確認させたり、記述例を示すようにする。

音楽を形づくっている要素を視点にして音楽を聴くと、感じたことや気付いたことを書いたり発表したりする内容が、より音楽的になることに気付かせる。

学習のめあてをもとに本時を振り返らせ、我が国の伝統音楽にさらに興味をもつようさせたい。